

文化

観光立国へ出発 世界の目で日本再発見

「観光立国日本へ」といざなう出発の合図である。おりのから、長く伸び悩んでいた外国人観光客の訪日も増え始め、政府観光局によると、13年に日本を訪れた外国人旅行者は史上初めて1千万人を超えたという。以前から多かった韓国、台湾からの観光客に加えて、経済成長を続ける東南アジアからの訪問客も増えているらしい。これに三つの新しい追い風が期待される。今後、日本の努力次第では、観光は輸出と並ぶ重要な国家目標となる可能性がある。

そのうえで、日本にあって観光が肝要なのは、それがたんに経済的困窮を救済する地方に閉じた利益をもたらすだけではない。国民の国際化にむけて計り知れない文化効果を生み出すからであって、身ぶり手ぶりで

民性も変わるだろう。ちなみに最近の外国人観光客は東京のような大都市だけでなく、伝統的な雰囲気を残す地方に心を奪われる人が多く聞かれる。また、国民の国際化にむけて計り知れない文化効果を生み出すからであって、身ぶり手ぶりで

なみに最近の外国人観光客は東京のような大都市だけでなく、伝統的な雰囲気を残す地方に心を奪われる人が多く聞かれる。また、国民の国際化にむけて計り知れない文化効果を生み出すからであって、身ぶり手ぶりで



都心風景 (©本城直季 courtesy of nap gallery)

民育成の基盤を強めるとも、日本をあらためて世界の目にさらすことは必須だと思われ。だが、もともと大切なことは、日本の愛国心が夜郎人を迎えることによらぬ。郷土にたいする誇りの思いを新たにすることができない。たとえ文化が国際的な目によって評価され、世界水準の価値を認められれば、これは従来の国内的な都鄙観を一変させるだろう。

大都市中心、一極集中型の文化観を根本的に変えるためにも、外国人観光客の誘致は「地方分権」論よりも有効な手段である。それは、飛躍的な拡大が望まれる。

(評論家・劇作家)

「自由意志に基づき判断、行動する」という近代社会の前提は虚構だと言いつける。現

複



前提に、それをつなぐのが学際。学問の境界など問題にしない複雑系は別物です。

新書を詠む

△きこちなき距離を保ちて歩みしあの幼子は、霜降へ向かう真夏の道

青蛙

3歳のときに母親が核で亡くなった。4歳のとき、新しい母親を迎えることになった。

私の郷里は琵琶湖の西岸。現在の高島市である。当時は養蚕村であった。この村の五十川という在所に母の実家があった。が、新しい母は、隣の在所、霜降の人であった。

新しい母と、いつか初めて会ったのか、まったく記憶にない。私がその道に白く陽炎が立っているように、どこまでも続

くのか心もなかつた。田んぼの畔に蛙を見つけた私がそれを捕まえたのは、ほとんど話すこともなく歩いているのに飽きたからだっただろう。捕まえた青蛙を母のほ

永田 和宏

新しい母親への抵抗



夕暮れ時の海—神奈川県鎌倉市

うに差し出し、そしてほら、得意だった。今なら思うこともでき、嫌がらせをして、それでもその人が耐えられなかったのか、もどきは

なげなげなことをした母を、新しい母を、迎えるようにする幼い子供。2度目の母も薄幸な人

「政治の代償」 (石ノ下トド、伏見威蔵訳) 社会福祉費削減に必じない大統領、ブッシュ減税の期限切れを増税として断固反対する共和党内閣議長。デフオルト(債務不履行)危機を前に、ホワイトハウスでは政策合意をめぐって気が遠くなるような交渉が繰り返された。2010年の中間選挙で共和党が下院多数派となったから

「人権は国境を越えて」 (伊藤和子著) 弁護士著者は、北京で開かれた世界女性会議に非政府組織(NGO)の一員として参加し、海外で深刻な人権侵害が続いていることを知る。

「苦悩の色」 前田も最善は尽くしているのだが、藤井の受けが確かで敗色濃厚が確している。

「激しい攻防」 前陣の白46の十心。左上隅白54のオサエ、黒も左辺に55とボウシ。競り合いが始まった。黒い手ではあるが、急いで打つときではない。白54は長考し47とハネたが、ここは68の上ハネや49のサガリ、Aのノヒなどが、どこの手がよいか迷ったところである。

激しい攻防

前陣の白46の十心。左上隅白54のオサエ、黒も左辺に55とボウシ。競り合いが始まった。黒い手ではあるが、急いで打つときではない。白54は長考し47とハネたが、ここは68の上ハネや49のサガリ、Aのノヒなどが、どこの手がよいか迷ったところである。

出雲王将戦 第34期

第6譜 先

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

苦悩の色

前田も最善は尽くしているのだが、藤井の受けが確かで敗色濃厚が確している。